第２回石川県成長戦略「ミライカイギ」
議事録

（開催要領）

１．開催日時：令和６年１０月８日（火）１６時００分～１８時００分

２．場所：ＡＮＡクラウンプラザホテル金沢　３階　瑞雲

３．出席委員（五十音順）：

青　木　　恵	株式会社北國新聞社取締役経営企画室長
數　馬　嘉一郎	数馬酒造株式会社代表取締役
加　納　慎　也	小松ウオール工業株式会社代表取締役社長
小　杉　佳世子	西日本電信電話株式会社北陸支店長
佐　田　啓　子	株式会社まつや代表取締役社長
新　滝　祥　子	株式会社ゆのくにの森取締役社長室長
新　保　雄　希	幼保連携型認定こども園泉の台幼稚舎園長
髙　田　恒　平	株式会社金沢彩の庭ホテル代表 株式会社金沢アドベンチャーズ代表
多　田　真由美	一般社団法人春蘭の里代表理事
出　島　彰　宏	珠洲市総合病院内科医長兼地域医療連携室長
任　田　和　真	いしかわ地域おこし協力隊ネットワーク共同代表
中　惣　恭　子	一般財団法人小原流南加賀支部長
橋　本　陽　子	北陸電力株式会社石川支店営業部営業担当主査プランナー
森　高　靖　子	加賀建設株式会社土木部課長
山　口　宗　大	株式会社どんたく代表取締役社長

（議事次第）

１．開会挨拶

　　馳石川県知事

２．議事

　（１）令和５年度の実施状況報告について

　（２）石川県創造的復興プランについて

３．意見交換

４．閉会

（説明資料）

資料１：令和５年度石川県成長戦略実施状況報告

資料２：石川県創造的復興プランについて

参考資料１：令和５年度石川県成長戦略実施状況報告書

参考資料２：令和５年度地方創生推進交付金・拠点整備交付金及び
　　地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）事業の実施状況

１．開会挨拶

【馳知事】

今日はちょっと盛りだくさんかと思いますが、改めてご理解いただきたいと思います。成長戦略を昨年作りました。今後 10 年間の石川県政万般にあたりまして、やはり人口減少社会ではあるけれども、その中で、地域間競争の中で我々石川県が目指していくべき姿を絵に変えて、それを実現し、計画を出し、特に数値目標もつけて毎年数値目標の確認をしながら、見直しもしながらやっていきましょうと。成長戦略を作っただけで、金科玉条のように守るのではなく、伸ばすところはもっと伸ばしていこうと、うまくいかないところは、またみんなで協議しましょうと、その協議をするメンバーとして、皆さん方をまず選ばせていただきました。私の大好きなとり野菜みその社長の佐田さんも今回から参加していただきました。よろしくお願いいたします。

2 点目に、思わぬハードルが二つもできてしまいました。地震と豪雨災害です。9 月 22 日から 24 日の 3 日間、私も現地に入りました。珠洲市の外浦、大谷、真浦、輪島市の町野、大変な状況であります。犠牲者も出ました。本当にお悔やみを申し上げなければなりません。したがって、成長戦略にこの地震と豪雨が及ぼした被害、これをどう我々は取り込んでいけば、こなしていけば、あるいはマイナスになった部分をどう踏まえて今後対応していくのか。これは天災でありますから、誰が悪いというわけではないけれども、我々の技術力やチーム力、あるいは民間の力、行政の力を総合して乗り越えていかなければいけない。乗り越えていくという観点をより大きな価値にしていかなければいけないというのが私の考えであります。

したがって、今日は成長戦略の令和 5 年度の実施状況、KPI 指標を見て、まずまずなのだろうと思いますが、それ以上に、この地震と豪雨災害によってへし折られた能登の皆さんの気持ちをどうやって我々は支えていくのか。これを乗り越えようとする価値観というものがむしろ必要になってくるのだろうと思いますので、こういった議論をお願いしたいと思います。

最後に 3 点目、初めてご覧になる方もいらっしゃるかもしれませんが、浅野大介副知事を皆さんに紹介したいと思います。経済産業省から来た非常に変わり種で、GIGA スクール構想を国に打ち込んだのはこの人です。そして農林水産省で今年の 6 月までいろいろな仕事もしていました。今般、西垣敦子副知事を東京の霞が関にお返しして、その上で改めて経済産業省にお願いをして、浅野さんをスカウトしました。変わった人です。私はもう 8 年、2016 年からのお付き合いがあり、大変私の信頼する相棒でもあり、非常に知恵も持っています。ネットワークも持っています。今日この場に参加をさせていただいて、石川県の成長戦略をともに描いていくブレーンとして、皆さん方とコミュニケーションをさせていただきたいと思っております。ぜひ皆さんからも、浅野副知事にいろいろな投げかけもお願いしたいと思います。

基本的にこの会議を取り仕切り、取りまとめるのは高橋企画振興部長であり、それは行政の仕事としてやりますが、どんどん皆さん方の気になったこと、こうすべきだという提言を打ち込んでいただきたいと思います。また、このミライカイギを仕切っていただく北國新聞社の青木座長には、感謝申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

２．議事
（１）令和５年度の実施状況報告について
（２）石川県創造的復興プランについて

（事務局から会議資料１、２に基づいて説明）

３．意見交換
【青木座長】
それでは意見交換に移ります。事務局から説明がありました、令和５年度の成長戦略実施状況の報告、それから石川県の創造的復興プランについて、忌憚ないご意見をいただきたいと思います。時間も限られておりますので、できればお一人３分以内でお願いをしたいと思います。
それでは、前回は五十音順に反時計回りにご意見をいただきましたので、今回は山口委員から順に、時計回りにご意見をいただきたいと思います。トップバッターですが、ぜひよろしくお願いします。

【山口委員】
前回参加できなくて今回初めて参加させていただきました。資料も事前にいただいて少し読んできたのですけれども、成長戦略ということで、本社が能登にありますから、どちらかというと全体の戦略というよりも、震災における創造的復興プランに結構興味があり、ずっと聞かせていただいておりました。
現状に関しますと、やはり震災の影響で家屋の倒壊であったり、設備のところが不良ということで、仕事をしたくてもできない方と、一方で我々も含め、何とか復旧はしたものの、やはり人口減少であったり、お客様の減少というところであったり、なかなか震災前のように戻れないというところの二つあるかなというふうに考えております。復興プランにはございませんでしたけれども、今後そういったところで、現在復旧して事業をやられている方に関しまして、何かしら物は作れるんだけれども、販売先がないというところがたくさんございます。七尾市には和菓子屋さんなんかが結構たくさんありますけれども、和倉温泉など、震災前は納入するところがたくさんあったけれど、今はなくなってしまい、販売先にすごく苦労されているというところがございます。私どもはスーパーマーケットをやっておりますので、そういったところから一生懸命仕入れながら、今金沢の方にも店舗がありますので、金沢の方で販売しております。能登応援という形で金沢方面のお客様はたくさん能登のものを買いに来ていただけるという流れもあります。そういったところで復興はまだまだ道半ばではありますけれども、何とか今の設備復旧、和倉温泉などはまだまだですけれども、復旧が終わりこれから復興に向かうところに対する販売網など、道筋がつかないところがたくさんあるので、そういったところへのご支援をいただければ、この復興がますます進むのではないかというふうに思いました。

【森高委員】
加賀建設の森高です。よろしくお願いします。私は土木工事の現場監督をしていまして、実際、震災と先日の豪雨災害にも業界としては復旧作業に携わっています。まだまだ復旧が主で、復興というとまだその先になるということもそうであり、石川県女性部会の会長も務めているのですが、女性部会としても何かできることがないかということもあります。能登で実際に被災されている方もいます。能登で実際に被災されている会社などで、働けない人

が金沢の方に移動し、会社に勤めている方の人数自体が減ってしまい、復旧がまたちょっと遅れるという悪循環があると思うので、それを何か打破できるような案があれば良いというのが一つです。石川県全体として、国も巻き込み、復旧・復興が促進、加速できるような案があれば良いということもあり、どこまで私らが携われるかも一緒に考えていきたいと思います。

【馳知事】

私達は能登半島地震からの復旧・復興と、重ねて起きた豪雨対策に取り組まなければいけないという現実は見ていただいていると思います。そんな中で、やはり働いている皆さん方の雇用の確保ということを考えていますが、いろいろなレベルを実は考え、切り出しをしています。例えば、公的に仮設住宅を建てましたが、その運営をするにあたり、見守りや支援など、いろいろな事情がありますので、そういったことなどです。また、国の事業にも在籍出向型の方式があり、雇用調整助成金という形でお金を出すこともできます。そういったメニューは取り揃えております。また、そういったメニューがあるのだけれども、もしかしたらそれが分からない、届いていないという可能性もありますので、そういったことも、広報を通じて、いわゆる伴走型支援と言いますけれども、それを説明して、こういうことに活用してくださいということを、実は順次やっております。それの繰り返しではあるのですが、窓口に基本的にご相談をいただいたり、ホームページでも広報しておりますので、そういったことを活用していただきたいというふうに思っています。

まず、インフラ 4 点セットの復旧は急いでいます。道路、電力、上下水道、あと通信です。このインフラ 4 点セットを回復させながら、仮設住宅は 9 月いっぱいでほとんど出来上がる予定だったのですが、豪雨のこともありましたので、これはまた少し振り出しに戻ったところもありますが、まずお住まいの安定を提供できるように支援もしてございます。

また当然、行政だけでは人が足りませんので、専門的な NPO 団体と連携した対応もしてございます。今、輪島市町野の東陽中学校にボランティアセンターの拠点を設け、本来なら社会福祉協議会の職員などが対応するのですが、それすらもできない状況なので、専門ボランティア団体に入っていただいて、お片付けやゴミ処理など、そういったこともしていただいているという状況です。

雇用の確保について改めて申し上げますけれども、いくつかの制度もあり、支援メニューもありますので、そういったことを活用いただけるように追いかけて説明する、プッシュ型の説明もさせていただいておりますので、そういったところをまたご利用いただきたいというふうに思っています。

【橋本委員】

北陸電力の橋本です。まず、この度の能登半島地震にさらに追い打ちをかけるような豪雨により、今なおつらい日々を送られている、被災されている方におかれまして、心からお見舞いを申し上げるとともに、1 日でも早く平穏な日々が訪れることを願っております。

そして、私達北陸電力グループといたしましても、なお一層能登の復興に向けてグループの総力を結集し、一丸となって取り組んでまいりたいと考えております。能登の復興があってこその石川県成長戦略だと考えているのですが、やはり 2050 年カーボンニュートラルという国の目標に対しまして、官民一体となり自主的に取り組んでいかなければ達成できないのではないかと思っております。そのため、県として目標を掲げて発信し、家庭・企業に取組を促していくということが必要であると思います。報告書を見させていただいて、取組を制約ではなく成長の機会と捉えてという言葉があったのですけれども、その考えを持ってい

ただくための普及啓発や支援といったことは引き続き行っていただきたいと思っております。

その中で電気自動車に関わることが私どもとしては気になりまして、成長戦略におかれましては環境配慮型自動車の普及やモーダルシフトの促進といった項目がございます。復興プランにおかれましては電気自動車によるグリーンドライブの推進といった項目がございます。電気自動車の普及の後押しになる良い施策だと思っており、令和5年度の実績の資料を見させていただきましても、乗用車における環境配慮型自動車の占める割合が順調に進捗していることが見られます。それというのも、やはり国の補助金に上乗せした県のそういった支援が効果としてあらわれているのではないかと思っております。

また、各道の駅に蓄電池型の急速充電器について今回お話はありませんでしたが、その設置を考えておられるということが資料に書いてございまして、能登を電気自動車でドライブするとなると、走行距離的にも長いので、やはり心配になってくるということがありますので、そういった急速型の充電器が道の駅にあるということは大変安心して走行できるようになり、非常時にも蓄電池型であれば充電ができますので、大変有効ではないかと思っております。

また、電気自動車は前もお伝えしたのですけれども、非常時の施設の電源にもなるということもありますので、ぜひ道の駅だけではなく、公民館などの避難所といった建物にもそういった蓄電池型の急速充電器が整備されることを希望しております。

また、復興プランに住宅等での自律分散型のエネルギー活用推進といった項目がございました。10 月には住宅向けの太陽光に対する補助金が創設されましたが、県では家庭と運輸部門における CO2 の量が多いと見受けられますので、家庭の CO2 削減に関しましても当社としては積極的に協力してまいりたいと思っております。

【中惣委員】

小松市から参りました中惣と申します。本日は貴重なお時間を賜り誠にありがとうございます。大変僭越ではございますが、私からは少し復興プランとは離れているかもしれませんが、生花小原流南加賀支部長、そして小松市教育委員として、常日頃感じておりますことをお話しさせていただきます。

子どもにとっての財産は、知識と経験、そこから得られる知恵だと思っております。石川の未来を明るく照らすのは子どもたちです。子どもたちに多くの経験を積ませて可能性を広げてあげることは、我々大人の責務であり、伝統文化はその中の重要な要素だと思っております。伝統とは、日本の歴史と社会を形成する重要な要素でもあり、古くから継承されてきた文化、習慣、価値観及び芸術の集合体のことを言います。これらの伝統は日本人のアイデンティティや誇りの源であり、日本社会の結束力を支えております。今日の日本社会においても、伝統は重要な役割を果たし、新しい価値や文化の創造にも大きな影響を与えています。

しかし、残念ながら子どもたちがこの伝統文化に触れる機会はどんどん減ってきております。例えば、コロナ禍を機に学校の子どもたちに様々な伝統文化を教える場であったクラブ活動が全て廃止されました。近年少しずつ回復傾向にはあるのですけれども、まだまだコロナ前の状況には遠くおよびません。その原因の一つとして学校側や教える側の金銭的負担がとても大きいということが挙げられております。こちらに関してぜひ補助の方をお考えいただければというふうに願っている次第です。

また、大変残念なことに、全国的に不登校やいじめは増加の一途をたどっております。自己肯定感が低い子どもが大変増えております。例えば、勉強やスポーツ以外でも、いくらでも自分の可能性を伸ばせる場所があるということを伝えたいと常日頃思っているわけであ

ります。この伝統文化に宿る精神に触れることで、子どもたちに誇りを持って生きることや、新しい何かを始めるときの指針や手がかりにつながることを、これからも様々な場で伝えていきたいと我々伝統文化に携わる者は思っております。

私事で大変恐縮なのですけれども、今年4月と9月に小松市において、能登半島地震復興支援チャリティーイベント、YELL GARDENと名づけたチャリティーイベントを開催いたしました。先日9月21日、ちょうど豪雨があった日です。9月21日、22日のチャリティーでは、私の教室におります3歳から11歳までの子どもたち15名に、生花にエールを込めてというテーマで生け花を展示してもらいました。例えば、おばあさまが昔使っていた花器と剣山に生けた子ども、あるいは九谷焼作家であるお父様の花器に生けた子ども、また亡くなった叔母様の焼いた器に生けた子どもなど、それぞれがみんな花に思いを込めて能登にエールを送りました。このYELL GARDENプロジェクトは本当に微々たるものなんですけれども、今後も子どもたちと一緒に10年を目標に続けていきたいと思っているところであります。

伝統文化の継承というのは技術を伝えるだけではありません。身の回りのあらゆるところに存在し、人々の暮らしと一体であるということ。また、家族の絆を深めて郷土愛を深めるということ。そして周りの人を想い合って、自分自身に誇りを持つことができるのが伝統文化だと思っております。これからも伝統文化の継承に一層の重きを置いていただきたいと切に願っております。

【馳知事】

北陸電力の橋本さん。県としても充電器、例えば家庭用の充電器を設置する場合の補助を5万円ほど実施するということにしました。汎用性のあるそういった装置を普及させることにより、家庭でもどんどん活用していただくことになると思います。また、道の駅だけではなく、公民館等というふうにおっしゃいました。私もその通りだと思います。これも官民連携で、安定的な電力を供給できるスポットの設置というもの。車を買っていただくのも当然であり、そのための後押しをするような施策も必要です。

安定的な電源、電力の供給というのは国策でもあり、我々県としても、それなくして経済成長に当たることはできません。同時に、持続可能性のある社会を目指し、多種多様な電源の確保と環境への配慮が両立する時代になっていますから、そのことを含めた新たな取組や、そういった新しい技術やご購入いただくときの後押しをする補助のあり方なども、より一層しっかりとやっていきたいと思っておりますので、またよろしくお願いいたします。

また、生花の先生の中惣さんありがとうございます。もう既に文化庁、文部科学省も小中学生の文化体験に対する支援をやっております。私も大臣時代から子どもたちにまずは体験をしていただくということでやっております。音楽文化もそうであり、こうした生け花、お茶などの伝統文化もそうなので、今後ともより一層丁寧にそういった予算の確保もしていきたいと思っています。

それから、おっしゃったことは、ふるさと教育という言葉にも置き換えることが可能だと思います。先生方から習う部分である学校教育と、地域のお稽古事や柔道、空手、剣道などの道場で習うということ、特に日本における武道やこうした皆さん方の生け花などは、型を追求します。型を追求すればするほど、個性が浮き立つのです。そういったことをしっかりとまず学んでいただくという機会はしっかりと県としてもバックアップし、それから、義務教育は市町のお仕事ではありますけれども、市町がそういう取組をしやすいような後押しを県としてもしっかりやっていきたいと思っております。皆さんよくご存知のOEKの広上さんはピアニカ一つ抱えて石川県中走り回り、音楽で子どもたちに、特に能登半島を回っていただいておりますけれども、プロのOEKの軍団が少しの編成で、子どもたちに少しでも前向き

な気持ちになってもらおうと音楽を届けていただいております。こういう文化活動をしている方々にも、何らかの活動資金は必要なのですが、実際につらい状況にある被災地にも入っていただき、明るい前向きな気持ちにもなってもらえるような活動、こういったことは支援していきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

【任田委員】

石川地域おこし協力隊ネットワーク共同代表の任田と申します。普段は小松市の松東地区というところに住んでおりまして、妻と子どもは今七尾にいるので、県内で二拠点のような暮らしをしております。週末は能登に帰りながらという暮らしをしております。

石川地域おこし協力隊ネットワークというのは県内の地域おこし協力隊の OB・OG で作った組織です。今石川県内には 70 名ほど地域おこし協力隊の方がいらっしゃるのですが、そういった現役の隊員のサポートを目的にした団体でございます。

現在、二拠点で暮らしている中で、やはり小松の日常と能登の日常にすごい温度差を感じるというところがあります。小松にいる方も能登に何か関わりを持ちたいという思いを持ちながら、なかなか、そこがマッチングできていないというのは現状の感覚として感じているところです。

地域おこし協力隊というのは、首都圏の方から石川県に引っ越し、最大 3 年間活動をするわけですけれども、この被災地でも、能登においては、例えば珠洲市のあみだ湯で運営されている新谷健太さんや、輪島市三井町の山本亮さん、能登町の方など、地域おこし協力隊の OB・OG の方が中心となり被災地の活動を引っ張っているという現状もあります。

そんな中、全国の地域おこし協力隊ネットワークと連携し、そういったところに各自治体、全国の地域おこし協力隊の OB・OG の方をマッチングするような取組も現在しているところです。最近ではあみだ湯さんの方に、これから 6 名ほど他の自治体の協力隊員が派遣されるというふうに決まっております。

そんな中、やはり知事からもありましたけれども、この震災を乗り越え、新たな価値と考え方を作っていというときに、このリーディングプロジェクトにもあります、取組 1、2、3 のところがまさに大事だというふうに思っております。関係人口の拡大やサテライトキャンパス構想、そしてこの学びの場づくりというところが、まさにこれから大事になってくるというふうに思っております。

石川県の震災を踏まえ、特に新たな関係人口を創出するにはすごく大事なポイントだというふうに思っております。特に進学をきっかけに石川県を離れてしまう方々でやはり地元に対し何か貢献をしたいという思いを持ってる方が、帰ってくるきっかけに必ずなると思います。そういった意味では、この石川県の人口の社会減を少し止めるきっかけになるというふうに思っています。特に元々石川県に愛着がある方の U ターンの促進が少しポイントになってくるかなというふうに思っております。

そして現在、個人的な活動でもありますけれども、能登と加賀でイジュトークという月に 1 回の移住者交流会を企画しております。その中では、毎回 20 名ほどの移住者が集まり、いろいろな話をするのですが、やはり移住してきた方というのは思いを持ってこられた方が多いです。ただ、なかなかその悩みを打ち明ける関係がなかったり、自己実現がなかなかできないという現状もあったりするので、そういった移住者同士のコミュニティであったりとか、打ち解けるような場づくりということが大事になってくるかなという思いで、月 1 で運営をしております。そういった意味で、これから石川県には新たな関係人口が増えてくると思いますので、そういったところに情報を届け、マッチングしていくということが大事になるかなというふうに思っております。

【出島委員】

珠洲市総合病院の出島彰宏です。はじめに令和6年奥能登豪雨におきまして、石川県及び数多くの支援団体ボランティアの皆様に早々にご支援に入っていただいており、心より御礼を申し上げます。依然として被災地には皆様のお力が必要でありますので、引き続きのご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。本日も復興リーディングプロジェクトに関わる内容として、医療に関してお話をさせていただきたいと思います。

まず、能登北部の医療提供体制について意見を述べさせていただきます。能登北部の4病院は震災後、住民の減少に伴い大幅な赤字となり、各市町の財政規模では総合病院を維持していくことは困難となることが予測されています。能登北部の医療提供体制におきましては、能登北部医療機能強化検討会や新聞報道を通じてたくさんの方が見解を述べており、ここで代表的なご意見を二つご紹介させていただきます。

一つ目は、能登北部に医療機能を統合した急性期病院を作り、既存の2市2町の病院は予防医療、介護、福祉の機能を有した形態にシフトしていくという意見です。

二つ目は、各市町で提供可能な範囲に医療機能を縮小していき、それぞれが担えなくなった医療機能は七尾や金沢の大病院が担っていくという意見です。

医療経済の合理性の観点からは、二つ目の意見のように医療機能縮小が最適と考える方が多いかもしれませんが、医療はインフラと同じで、なくてはならず、生活が成り立たなくなるものであり、医療との距離が生じてしまうと能登北部で暮らし続けていくことは困難となり、人が住まない地域になってしまうことが危惧されます。度重なる天災により、被災地という印象が強くなってしまいましたが、かつてはそうではありません。創造的復興プランで述べられているとおり、生まれた土地や人を大切にし、先祖から受け継がれた奥能登の文化を継承し、命を繋ぎ、穏やかに日々の暮らしを営んできた、そういう方たちが多くいます。それをなくしたくはないと思います。能登は地震や豪雨災害で心が折れそうになってもなお、ここを諦めたくない、奥能登を愛して住み続けたいと思っている人々がおります。奥能登の復興や能登北部統合病院の構想に厳しい意見があるということも承知はしておりますが、どうかもう一度奥能登で人々が安心して暮らしていけるように、皆様にチャンスをいただきたいと思っています。住民、そして未来を担う若い世代が今後も適切な救急医療を受けられ、安心して子どもを生み育てていく環境を整えるために、統合病院は必要不可欠であると考えています。ぜひこの病院の必要性を皆様にも一緒に考えていただきたいです。よろしくお願いします。

二点目は医療従事者の確保という点で意見を述べさせていただきます。能登北部の総合病院で勤務する医師以外の他職種のメディカルスタッフは、地元出身者が各病院に就職して医療を担っています。しかし、震災後は離職者も多く、減少しており、さらに新規の入職者は高校に通う世代が震災後大幅に減少したことに伴い、今まで以上に少ない状況となっています。そこで、金沢の大学病院や石川県立中央病院など、大病院に従事している医療スタッフを在籍出向という形で、既存の勤務地の身分を保障いただきながら、1年ないし2年程度の短期間、能登北部の病院で勤務することを将来的にご検討いただけないでしょうか。職員数が確保されるのみならず、最先端の医療経験を有するスタッフから数多くの経験や知識を共有できるというメリットもあると思っています。

以上二点について意見を述べさせていただきました。よろしくお願い申し上げます。

【馳知事】

ありがとうございます。任田さんも出島さんも、本当に石川県の将来、全体を見越したご提言、ご意見として発言されたことに感謝申し上げます。

実は地域おこし協力隊というのは、私が安倍内閣にいたときに石破さんと、彼が地方創生担当大臣、私は文部科学大臣でありましたが、ともに取り組んだ施策であり、青年海外協力隊の OB 会である JOCA 会長の雄谷良成さんは高校の同級生なのです。彼が青年海外協力隊で海外に行っている頃、この青年海外協力隊のパワー、エネルギーを、帰国された後に何とか地域振興につなげることができないかというときに、国会議員として尊敬する石破さんが地方創生担当大臣として、なかなか言葉が通じない海外の発展途上国で、何もないところからあるものを作り出してきた彼らのパワーを地方創生に活かすべきではないかと、まず人に着目したところが素晴らしい発想だったと思います。雄谷 OB 会長も俺たち帰国しても何か物足りないんだよなというような、何か世の中のためにしたいのだけれどといった、エネルギーがあり余っている若者たちがいると。そして地方に 2、3 年ではありますけれども、行っていただくということに意味がまずあると思っています。それに感化され、移住につながったり、人を呼び込んできたりなどです。

また、発展途上国の何もないところから何かを作り上げるパワーはすごいです。改めてシステム作りも含め、ネットワーク作りも含め、期待をしております。また、その方々が地域にいるとどうしても孤立しがちです。そういう方々の、お前のところはどうだ、私のところはこうですというようなコミュニティをしっかりつないでいくということも必要だと思います。どう考えてもやはり、昨今のネット環境、いわゆる能登半島のどこでも 5G、そのうち 6G なると思いますが、それを活用できる環境づくりというのは大事だと思っておりますので、NTT の小杉さんも含めよろしくお願いしたいと思います。

それから出島さん。ありがとうございます。私は今日ここで知事として結論を言うのは控えますが、能登の公立 4 病院は何とかしなければいけない。そこで赤ちゃん協議会をまず作りました。これは産婦人科小児科医だけの話ではなく、総合医療を考えた場合にどうしたらいいのかということで、まず赤ちゃん協議会からスタートし、今はこの公立 4 病院をどうするのかについては来年度中に何とかします。今はまず、それぞれの公立病院の機能強化をし、戻った人が働けるようにする。足りない診療科等については、金沢大学、医科大学病院、そして県立中央病院にバックアップをしていただきながらやる。そしてこの在籍出向型ということは、ぜひそれはお願いしたいと思っています。

ちなみに、長崎県では学校の先生になると生涯のうちに 5 年から 7 年間は島で働らかなければけないのです。そうすることにより、長崎県の一体的な基礎教育の強化をするということと、どの年代でも離島で働くということの意味、ここが大事だということの意味を子どもたちにも伝えるということについて先生方も理解するということになっている。それをしないと長崎市で働きたいとみんなが言ってしまうので、人材の配置ということを考えると、この在籍出向型の医療スタッフのあり方は、当然お医者さんにも何とかお願いしたいと思っていますが、これも合意をしながらやっていかざるを得ないので、改めて赤ちゃん協議会などを通じ、また、奥能登公立 4 病院の機能強化検討会の中で議論をした上で、来年度中には取りまとめますので、また先生のご指導をいただきたいと思います。

【多田委員】

能登町から来ました、春蘭の里の多田と申します。

奥能登は 1 月 1 日の地震で本当に大きな被害を受けたのですが、また先日の大雨によって、本当にさらに大きな被害を受けました。地震からもうだいぶ日が経っていたので、復興もかなり進んできていましたし、能登の人もやっと普通の生活ができるようになり、これからまた能登に住んでいきたいので頑張ろうと思っていた人もとても多かったのですが、やはり先日の雨で、誰も想定していなかったのですが、こんなに大きな被害があり、心が折れた

方が本当にたくさんいると思います。実際に私の知り合いの方でも、せっかく家を直して頑張ろうと思っていたけれど、もういいと言っていた方がたくさんいます。例えば、能登の景観や、素敵な素晴らしいお家などそういうところで大きなダメージがありましたが、本当に能登の人の心が一番大きなダメージを受けているのではないかと思っています。

大雨の前は、地震からだいぶ日も経っていたということもあり、報道される機会も少なかったり、世間の方から忘れられているのではないかと、そういう心配というか不安になっている方もたくさんいたのですが、能登の人というのはあの時の地震の恐怖であったり、トラウマというのは忘れることができません。未だに余震があったりするのですが、その度にあの時の恐怖を私も思い出します。

私も地震の後に避難所を運営していたのですけれど、その中でやはり地域の方が一番喜んでくれたと思ったことが、炊き出しやイベントサロンのような機会だと思っております。やはり心のダメージというのはなかなか消えないので、そういうイベントサロンなどで地域の中の人との交流をしたり、ボランティアに来てくださった方と交流したりできることが今の能登の人にとって一番良いことなのかと思っています。

能登の学校のグラウンドや体育館など、使えなくなった場所が本当にたくさんあると思いますが、私の知り合いでも、もし中学校に入ったとしてもグラウンドや体育館が使えないのであれば、自分の子どもに十分に運動させてあげられないから、金沢の学校に転校するということで出ていった方がたくさんいるのですが、やはり普段仮設住宅に住まれている方や避難所にいる方というのは、思うように体を動かせなくて少しストレスになっている方もいると思うので、ぜひ何か運動ができる機会などをつくっていただけたら嬉しく思います。私達大人にとっての１年というのはあっという間であり、今できなければ来年やれば良いというふうに思えるかもしれないのですが、小学生や中学生、高校生などの学生にとっての１年１年というのは本当に大事な期間だと思うので、ぜひ子どもたちが十分に運動できるような環境もつくっていただけたら、心の面でもいいのかなと思います。私も小学生時代にドッジボールの部活をやっていて、馳知事にも大変お世話になりましたが、実際に私が今通っているクラブの子どもたちもやはり練習ができないまま大会に参加するといった子どもがたくさんいたので、何か子どもたちが運動できる環境をぜひつくっていただきたいと思います。

個人的に能登の祭りがすごく大好きなのですが、やはり祭りというのは、能登の人たちが頑張ろうと思えるきっかけの一つであったり、祭りのために帰ってくるという能登の人もたくさんいたりするのですが、やはり地震の影響で担ぎ手が少なくなった地域などもあると思うので、能登の祭に来てくださるボランティアの方などをたくさん受け入れできるような仕組みもつくっていただけると良いと思います。

まだまだ能登は復興途中なのですが、本当に能登の人たちだけではなかなか復興ができないので、ぜひこれからもたくさんご支援をいただけると嬉しく思います。よろしくお願いします。

【髙田委員】

金沢彩の庭ホテル、金沢アドベンチャーズの髙田です。よろしくお願いいたします。私は観光事業に従事する者として今日は観光の観点で発言をさせていただきます。

私達は９月１日に「行かないと！能登」旅して応援バスツアーというものを企画いたしました。おそらく震災後初めての輪島地域への観光ツアーだったと思います。ツアー内容としては、行く先々で現地の方と参加者がコミュニケーションを取れる機会を創出し、震災という切り口ではなく、実際の能登の魅力を直接伝えようというところが特徴でした。参加者からの評判も高く、ツアー催行後に観光庁観光地域振興部の長﨑部長や、JNTO の若松理事と

も実施報告と意見交換をさせていただき、今後の能登観光に対する期待のお声をいただきました。かなり現地の方とも手応えを感じていたのですが、ご承知の通り、輪島エリアも豪雨の被害がございました。今の多田委員の発言にも重複するところはありますが、あんなに復興に前向きだった現地の方々も、さすがに今回の件は身体的にも経済的にもかなり堪えているように聞いております。気持ちが折れかかっている方々にもう一度明るい兆しとなるような支援のあり方や、また、気持ちを取り戻した際に、地域の皆さんの背中を押して差し上げるような優位性を感じる施策をぜひ検討いただきたいと思います。

また、そういった方々へのバックアップとして、県外企業の誘致というのも時期を見て進めるべきかと思いますが、まずは我々のような地元の民間企業が気持ちよく支援でき、支えとなれるような体制の構築が必要であると考えております。

最後になりますが、今私達は百年に一度、千年に一度の乗り越えなければならないとても大変な課題に直面しております。地元の有志や観光事業者が本気で一緒になり、「観光の力で能登の復興を。」というような共通のミッションを掲げ、全身全霊取り組むことが今最重要かと考えております。

【馳知事】

春蘭の里の多田さん本当にいつもありがとうございます。お父さんにもお世話になっております。お礼申し上げます。能登の発災以来、66 回視察を行い、仮設住宅やあちこちの生業関係者の生の声を聞いてまいりましたが、良い意味で申し上げるのですが、能登でしか生きられない人はたくさんいるのです。その理由は何なのかと思いました。金沢や、加賀の方の旅館にも 2 次避難で受け入れていただきました。狭い部屋で毎日ちゃんとした温かいものを食べられて安心していられるのだけど、自分の居場所はやはり能登の自分の畑であったり、寒いけど家であったり、そして地域の皆さんと一緒に生活する空間の中で生きることが自分の価値観だとおっしゃるのです。そのため、結構無理をして納屋に住んだりしながら、一部損壊の家に戻りながらも、やはり戻ってきて安心して地域の皆さんと協力して活動されている姿にたくさん接しました。むしろ価値観といったものをいかに守っていくのか。最低限の文化的生活というものを保障するために我々行政が頑張らなければいけない部分と、その価値観はもしかしたらは観光という観点でも、そういう価値観こそ意味合い消費の中で、やはり提供できる部分があるのではないかということが私の考えであります。

また、彩の庭の髙田さんには、受験生を引き受けていただいき本当にありがとうございました。1 月 1 日の発災で受験まで間近という時に受験生を率先してまず受け入れていただいたことに本当に感謝申し上げます。本当に子どもたちも安心してまずは勉強に集中できたと思っています。

観光業の皆さんに改めて申し上げるのは、意味合い消費という、いい所を見て美味しいものを食べて良かったなと、素敵な人と一緒に行けてよかったなという中に、旅をすることの意味を求めていく。そういう旅の仕方ということがあります。ラグジュアリーな層向けの観光商品の提供であったとしても、家族で旅に行きましょうと、あるいはボランティアも兼ねてでも能登に行きましょうという、いろいろなニーズがある中で、やはりそこにしかない価値観をいかにパッケージとして提供していくのかに意味があると思っています。

改めてこうした能登にお住まいの方の日々の生業というのはやはり金になるのです。少し表現が非常に生々しいですが、それをやはり提供していくことができるようなことにも、我々もバックアップしたいと思います。

また、能登町のあばれ祭に行ってびっくりしましたが、学生さんがたくさん来られていました。対口支援で全国の自治体職員の支援に来ていた方々が、実はあばれ祭で一緒になり、

神輿を担いで、たくさん声をかけていただいたことにびっくりしました。やはりそこにしかない魅力というもの、祭りの魅力、こういったことは今後も能登を復興させる上で大きなパワーになってくると思います。それにつけても、2回目の水害で大変なのだけれども、我々はここで諦めるわけにはいきませんので、何度も何度も、まずは生活支援、生業支援というものを丁寧に打ち込んでいきたいと思っていますので、またご協力をよろしくお願いしたいと思います。

【新保委員】

泉の台幼稚舎で保育施設の施設長をしております新保雄希と申します。よろしくお願いいたします。いただいた議案に関して少しだけ意見を述べさせていただきます。

成長戦略につきまして、この出生率の数字がなかなか上向きにならないというのは非常に苦しいところではありますが、保育に関する全国的なトレンドとして、もう次は出生数が70万人割れるのではないかという超人口減少社会への突入というところで、全国的にも統廃合や人材不足、または人手不足からの不適切な保育など、そういったことが話題になっております。それに加え、石川県におきましては震災からのまた豪雨ということで、奥能登はじめ、被災エリアに関しては、ますます保育の維持、継続ということが非常に課題になっていることは、業界の中の人間として非常に課題感を増しているところです。

成長戦略はこども家庭庁ができる前からの策定だったと思うので、なかなか難しいところがあると思うのですけれども、前回も申しました通り、子どもの権利保障や、子どもの意見反映というところで、できれば赤ちゃんの声も聞いてほしいですし、年長さんの声も聞いてほしいのですが、なかなか文章にするのが難しいと思うので、その世代に一番近しい中高生あたりの子どもたちの声をぜひ拾ってほしいというところがあります。実は今回の創造的復興の中でも様々な形で若者や子どもたちの声を聞くという場面として、非常に多くの機会を設けて頂いてるように聞いておりますので、そういった流れは非常にありがたいと思って見ている次第です。ぜひ復興プランの中で、または今後の少子化対策や、若者、子どもの未来をつくっていく施策のところでも子どもたちの声を反映していただきたいです。

また、その際に本当にこれまでの実績や経験のあるNPOやプロボランティアと呼ばれるような方々が多く能登に入っていらっしゃり、本当にその活動には尊敬しかないというふうに思っています。先日の豪雨災害のときも仲間の施設に浸水被害がありましたけれども、我々が気を揉んでいるうちに、近くを通りかかったプロのボランティア集団の方がすぐに泥かき、泥上げをされたというふうに聞いており、その速さや備えている道具が、我々業界のみんなで助けに行くというレベルではなかったと聞いています。そういったことからも日頃からそういったところとつながっているということ、そういった団体や力が世の中にもあるということを、とりわけ閉鎖的な保育業界なので、知っていることのほうが大事なのかなと思いました。

また、こういったことを通じて子どもたちの居場所であったり、先ほどもお話がありましたが、スポーツや芸術、それから、何か世の中のためにしたいけれどどこ行っていいか分からないという、活躍の場所が奪われていくことを非常に残念に思っているところです。これは被災地に限らず、部活動の地域化というところも課題になっていると思うのですけれど、県内に住まわれるいろいろなニーズをお持ちの子どもたちが様々な場面で活躍できるようなあり方が、ますます必要になっていくのではないかと思います。

もう一つの視点で、創造的復興に関してですが、元旦の発災で自発的に避難所として運営された保育施設が何ヶ所もございました。これはあくまでも自主的な運営にはなりましたけど、やはりここから各保育施設が避難拠点になるとか、防災拠点になるというイメージは何

かもう少し広げられないものかと考えていました。まさに先日の豪雨災害のときも、輪島みどり保育園さんだったと思うのですけれども、子どもと女性のための福祉避難所として、いち早く豪雨の後に施設を開放されたというふうに伺っています。そういった取組を公的なサポートも受けながら安心してできるような体制づくりということも、創造的復興の一部なのかなと思いました。

また、先ほどの説明の中でフェーズフリー、フェーズゼロというような考え方をお伺いしましたけれども、有事のときだけそういった形ではなく、日頃から保育施設が、例えばそういう備蓄の拠点になっていたり、地域に関連する人が集まる拠点になっていたり、移住の窓口になっていたりなど、そういった機能を備えていることにより、何もないときは地域が活性するハブになり、有事の際には避難や防災の拠点として皆さんの命や生活を守る要になりうるのではないかと思っています。そういったふうに歩みを進めることができれば、国内でも先駆的な防災福祉拠点としての保育施設のあり方を示せるのではないかと考えました。少しイメージ先行型で申し訳ないのですけども、私からは以上となります。

【新滝委員】

ゆのくにの森の新滝です。パソコンのカタカタという音で少し緊張しますが、観光についてお話ししたいと思います。

成長戦略の戦略 3 である「個性と魅力にあふれる交流盛んな地域づくり」について、実施状況を確認しましたが、ほとんどが「B」評価でした。これは今回のような大震災があったにも関わらず、地域が進歩していることを示しています。観光は止まらないという印象を受けました。

能登の観光に関してですが、私の知り合いの輪島塗の会社を営む経営者の方も大震災で大変な被害を受けました。元日には輪島塗が棚から落ち、建物が壊れたにも関わらず輪島塗は残っていましたが、今度は水害で商品にならなくなってしまいました。しかし、それでも諦めずに再建を目指している人たちがいます。このような状況だからこそ、県の PR や誘致活動を続けていくことが重要だと思います。

また、SNS での情報発信も非常に重要です。インスタグラムなどの SNS は、ある日突然ヒットするわけではなく、日々の積み重ねがあって初めて成果が出ます。美しい風景や PR したい内容を積極的に発信し続けることが大切です。特に観光資源の魅力を広く伝えるためには、SNS の活用が欠かせません。

さらに、能登の観光をゼロから再スタートさせるために、AI の活用も考慮すべきです。SEO 対策として能登の観光や石川旅行の検索エンジンが AI に取って代わったとき、どのような情報を提供すれば良いかを考える必要があります。AI の進化により、観光業界にも新たな可能性が生まれています。これらの技術を上手く活用することで、能登の観光の発展につながると信じています。

最後に、先ほどから聞こえるパソコンのカタカタという音も、将来的には AI 技術が進化することで、読み起こしなどの作業もすべて AI で行えるようになるでしょう。観光業界もこのような技術の進歩に合わせて進化していくことが重要です。能登の観光が時代の流れに乗り、さらに発展していくことを願っています。

【馳知事】

国もようやく子どもの権利保障、条約を批准して 28 年目でようやくこども基本法を作り、我々石川県でも、子どもの意見表明権というのは今まで条例に入れてませんでした。これは本当に国がようやくこども基本法という法的な整備をしていただいたおかげで、私も早く子

どもの意見表明権というのは県内の何らかの条例の条文としてしっかり打ち込んでいきたいと思っています。

今回も、これは高橋さんに気を使っていただいて、大人男性ばかりではなく、行政、政治家ばかりではなく、企業の人ばかりではなく、女性、そして子どもたちの意見も復興プランに反映することができるように意見聴取についても配慮していただきました。また、専門的なNPO団体にも入っていただき、きめ細かく意見聴取をさせていただきました。新保さんが金沢で頑張っておられますけれども、能登の保育の状況というのは大変厳しい状況にございます。それ故に、今新保さんもおっしゃったように、逆に、この子育て支援の場所を拠点として地域のハブにしていくという考え方は、私は一つの大事な視点だと思っています。改めて、もちろん備蓄ということもそうですし、いざとなれば避難所や通信の拠点にということは当然なのですが、それ以外にもやはり日常的にフェーズフリーとおっしゃいましたことはその通りで、日常的に子育て支援、保育の場所が人の集まる場所、何かあれば大人もきちんとサポートをしてもらえる場所、そして、女性と子どもに優しい社会は男性にも優しいはずです。改めてそのことが当たり前な地域であるべきだと思いますので、大事な視点としてご意見をいただいたと思っています。また、新滝さんとは私も長い間お付き合いがありますが、改めて、意味合い消費ということは本当に大事だと思っており、観光産業をもっと石川県の成長産業にしたいと思っています。そのときに、やはり何をどんな意味合いで石川県を目指すのか。また、石川県は加賀もあれば能登もあるわけであり、今般能登の場合には、今後の防災のモデルとなる地域にせざるを得ません。そのためにやはりインフラの整備も必要だと思っています。また、どんな意味があるのかという意味では、それは里山里海や、トキの放鳥などそういったこともありますが、やはりここに生活をしておられる人の力と言うのでしょうか。当然、酒蔵もあります。今少し再開してきましたけれども、これも復活させたいと思います。輪島塗、珠洲焼、伝統工芸に生きる人たち。また、和倉温泉などの温泉街で生きるスキルの高い従業員の皆さん方、こういった方々の生き様というものは、ある意味では本当にこういう人たちと交流する、こういう人たちのスキルに触れることが、旅行の一つの意味になり、商品にもなると思っています。そうしていくことが、本当にこの地域の魅力を発信することにつながると思っています。

また、先ほどの話に戻りますが、道の駅をこうした旅の方々の、何かあったときの拠点にしていくということは、もっと工夫ができると思っています。改めて、そういった皆さん方のご指摘を踏まえ、成長戦略もそうですし、創造的復興プランを発展させていきたいと思いました。改めてありがとうございます。

【佐田委員】

まつやの佐田と申します。よろしくお願いいたします。

まず先に成長戦略の一つにつきまして、安心して子どもを生み育てることができる環境の充実というところに関し、弊社が取り組んでいることを一つ発表させていただきます。令和2年に企業主導型保育施設の共同事業に関して協定を結び、現在、弊社の社員は妊娠、出産し、復職した後には、提携したその保育園にお子様を預けることができております。企業主導型保育施設は会社の近くで子どもを預けるため、社員の仕事と子育ての両立を支えるとともに、育児中の親の働きやすい環境を提供することにつながっていると考えております。保育施設を利用している社員も出産後に子どもを預ける場所が確保されていることで、安心して復職できたと話しています。また、第二子、第三子と安心して産めるのではないかということも申しておりました。石川県には、女性ばかりではないですが、働く女性が長く働き続けることができる環境づくりを今後も幅広く取り組んでいただけたらと思います。よろしく

お願いいたします。
　次に能登の復興というところですが、弊社でも何かできることはないのかと常日頃社員とも話しをしてはいるのですが、県外の方は能登の復興ということで、弊社かほく市のとり野菜みそを復興支援と位置付け、いろいろなところで取り上げていただいているのですが、ありがたいと思う反面、いやもっと自分たちが同じ石川県の中にいて、能登から近いかほく市にいて、何かできることはないのかと思うのですが、実際何をしていいのか分からないというところがあります。その中で何ができるのかというと、能登で働く場所を失った方を受け入れることはできるのではないかと思っていたのですが、震災、豪雨被害もこの間ありましたが、この半年以上の間でそういうお話をいただいたことがなく、どこに聞けばいいのかも分かりませんでした。
　先ほど二地域居住モデルとして、週末を能登で過ごして、ウィークデーは別のところでお仕事をするというお話がありましたが、そういうことに手を挙げる企業もおそらくあるので、受入可能な企業を登録し、仕事を紹介できるような場があっても良いと思っております。また、多種多様な企業、職を探しているいろいろな方がいらっしゃると思うので、企業が手を上げやすくするために、県の助けといいますか、助成などがあればありがたいと思います。

【小杉委員】
　NTT 西日本の小杉です。よろしくお願いします。まず、奥能登豪雨につきまして被害に遭われた皆様に心からお見舞いを申し上げます。弊社の設備ですが、地震で復旧した設備が豪雨により再度被害が生じており、NTT グループ中心に建設会社の皆様の総力を挙げて、1 日も早い復旧に向けて全力で取り組んでおります。
　創造的復興プランについて、地震の発災後、私達も仮設住宅通信相談会などを 20 回程度実施しており、被災者の方々から直接お話を伺っています。e スポーツなどをやりながら体を動かすことを、とても楽しんでいただいたということもありました。先ほどの多田さんのお話にもございましたが、コミュニティはとても大事だということを本当に感じております。
　先日、能登地域の校長先生とお話をする機会がございました。教師が不足しているということで、今後はオンラインで複数校を連携させた授業がさらに必要になってくるのではないかとご意見がございました。創造的復興プランの中にも教師のシェアリングや越境などが書かれておりますが、非常に重要になるのだろうと感じています。馳知事、浅野副知事を目の前にして申し上げるのも非常に僭越ですが、教育の分野はデジタルが非常に活用できる分野だと思っており、例えばセキュリティをしっかりと担保させれば個々の生徒の興味に合わせ、しっかりと個別最適化された授業の提供ができます。何よりデジタルを活用することで、忙しい先生方を助け、生徒の皆さまと向き合う時間を作れることができるのではないかと考えています。
　それに加え、地震を糧に越境教育もさらに全国に拡大させられるのではないかと思います。まさに能登の創造的復興であったり、災害を踏まえたまちづくり、伝統工芸や祭り文化のような能登だからこそ伝えられる、この地域独特の内容というものを、うまくカリキュラムに盛り込むことで、全国の生徒が能登や石川に集う仕掛けを作ることができるのではないかと我々も感じています。地震を糧にぜひ特色ある学校形態というのを能登発で打ち出していき、全国から越境してきた生徒の教育などにより、関係人口が増えるような営みというものを、デジタルや通信の分野からもぜひ貢献させていただきたいと考えています。
　2 点目が、成長戦略の温もりのある社会に関してです。先日、弊社内で LGBTQ+の当事者の方をお招きし、座談会を行いました。日常の本当に悪気のない言動、その方のためを思ってやっているということが、実は当事者をずっと傷つけ続けていることがあるということを身

をもって感じました。企業の立場として、多様なメンバーが最大限の能力を発揮するためには、尊重され、受け入れられていると感じる職場づくりをいかにつくっていけるのかということだと思っています。これは決して LGBTQ+の方だけではなく、皆に当てはまることであり、知識をしっかり身に着け、相手の立場になり、物事を捉える機会を提供していきたいと考えています。ぜひ社会全体も温かい社会になっていければ良いと感じております。

【浅野副知事】

まさに二拠点居住についてどうしていくのかというのは、これからアドバイザーの皆様に入っていただきながら考えていかなければいけない話でございます。したがって、企業さんに今おっしゃっていただいたように、企業にとってもこれはメリットだと感じられる、要するに従業員の皆さんに対してこれだったら働きかけられるというものを、もっと具体的により一層こういう場で、オフも通じ、議論させていただきたいと思います。まさにこれが都会から、都会と言っても金沢みたいな都会のみならず、県外や東京も含め、どう考えていくのかというものの一助にさせていただきたいと思います。

また、小杉委員にいただいたご意見はまさに知事と私と本当に6年前に実現に向けて一緒に汗をかかせていただいた。GIGA スクールという環境を通じ、あの中で今まさにおっしゃっていただいたようなイメージです。これで1人1人個別に最適にということができるということであり、越境する、要するに、隣近所だけではなく、目の前のクラスメイトだけではなく、目の前の風景、目の前の大人だけではない子どもたちの関係、関係性というものを子どもたちに届けることができる。多様性の中で、ただでさえやはり能登はどんどん自然体だと人口が減っていってしまう。そうすると、生きづらさを感じる子どもたちも非常に多くなってくる。幼稚園から高校までずっと一緒というようなお子さんもたくさんいらっしゃると聞きますけれど、どこかでミックスできることにより、いろいろなアイデアが生まれたり、生きづらさの解消につながったり、そういったこともデジタルの力を通じてどんどんやらなければいけないことだと思っておりますので、ありがとうございます。力をいただいた感じがします。これからもよろしくお願いします。

【加納委員】

小松ウオール工業の加納と申します。弊社は小松市で建材の製造をしているメーカーなのですが、私の方からはまず成長戦略のところで、戦略4の石川の未来を切り拓く人づくりというところで、主要目標に設定いただいている県内大学短期大学の志願者数が15%ほど減っているということが少し気になりました。また、我々の地域で言いますと、南加賀の方は、高校も結構定員割れを起こしている地域で、我々もそうですが採用活動が非常に苦労をしています。また、採用の前にあたる大学生であるとか、高校生も減り、ますます苦しくなりそうだということを課題として改めて少し感じている次第です。

そうは言っても石川県や関連団体の方々には、企業とのマッチングと言いますか、いろいろ情報共有をしていただける場をつくっていただいているということも認識しており、本当に引き続きそういった活動を通して少しでも学生の方々に知っていただくという機会をつくっていただければありがたく、引き続きお願いしたいというふうに思っています。

また、子どもが爆発的に増えることはないかもしれないと思っているおり、省人化、機械化にメーカーとして日頃から取り組んでいるのですけれども、そちらに関しても石川県や関連団体の方々からDXなど、DXと言うと少しビッグワードですが、機械に入れるソフトウェアやプログラミングもいろいろと情報提供をいただいており、機械を単純に機械で加工するということだけではなく、機械を人が管理していくということを通して、機械が製品を作っ

ていくことに非常に支援いただいているというふうに思っていますので、それも引き続きのお願いと、いいことができていると思っているので今以上にそのあたりをお願いしたいと思っています。

能登に関して、個人的にはいろいろ親戚もいたりするのですが、久しぶりに和倉温泉に行くと、なんかあんまり変わっていないというか、まだこういう状況かと少し愕然としたのですが、企業として何かできないかということも少し考えており、先ほど佐田委員からもありましたけれども、話戻りますが、人手不足という課題は非常にありますので、ニュースで能登の高校生が地元に就職したいけれども、そういう企業がないというより、採用がないといったことや、雇用がないという話もされていたので、もしそういったところで、マッチングではないのですが、何かご協力できることがあれば我々としても非常にありがたいお話なので、そういったところももしできるのであれば、お願いしたいと思います。

【數馬委員】

數馬酒造を経営しています數馬嘉一郎と申します。本日もウェブからの参加で失礼いたします。まず、日頃より多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。

自社の現状として、震災以降、修繕や建て替え、解体に向けて日々取り組んでおりますが、建て替えに伴う大規模な修繕工事のスケジュールがまだ定まっていない状況です。そんな中、今回の大雨の影響もあり、修繕箇所がさらに増えてしまい、毎日のように修繕に関する打ち合わせを行っております。それでも、今できること、そして今だからこそできることが多くあると感じておりますので、目の前の一つ一つの行動を積み重ねていくことを大切にしています。

我々の業界、特に酒蔵の視点で申しますと、先日開催されたサケマルシェという大きな日本酒イベントで、能登の酒蔵の皆様とお会いする機会がありました。その際にお話を伺ったところ、私の知る限り、皆様同じ場所で再建を進めようとしている方が多い印象です。日本酒はその土地のお米や水を使う産業の一つであり、地域に根ざした存在であるため、皆さんご自身の蔵があった場所への思い入れが非常に強く、前向きに再建を進めておられます。石川県酒造組合連合会の会長である車多さんからも、「石川県の酒蔵はワンチームだ」というお言葉をいただき、震災後も県内の同業者から多くのご支援を頂戴しております。こうした支援を受け、全ての酒蔵が前向きに進んでいけるのではないかと感じています。

ここで、3 点お伝えしたいことがあります。まず一つ目は、四つの柱にもあります通り、次世代の人々が住みやすいような医療、福祉、子育て支援の強化を引き続きお願いしたいという点です。

次に、個人的な意見も含みますが、金沢と能登間の移動時間が短縮されると、経営面や販路拡大、採用、そして私自身の生活においても非常に助かります。現在、片道 2 時間かかっておりますが、これが 1 時間半になるだけでも精神的に大きく楽になります。毎日感じているのですが、この最後の 30 分が非常に大きく、その時間が短縮されるだけでも非常にありがたいと感じております。

最後に、弊社ではこのような状況下だからこそ採用活動を進めようと考えております。そして、実際にこの状況下でも能登を選んでくださる方が確実にいらっしゃることを実感しています。平時の採用活動とは異なり、強い覚悟を持った方々と出会える機会と捉え、前向きに採用活動を続けたいと考えております。そのような中で、住む場所の問題が出てきますが、公費解体が進む中で、空き土地や空き家が増えてくることが予想されます。これらのスペースが、能登に覚悟を持って来られる方々の手に渡り、彼らがここで力を発揮できるようになることが重要だと考えています。少し漠然としていますが、そういったスペースが適切に分

配され、能登での生活を望む方々に届くことを願っています。

【高橋企画振興部長】

加納さんからのご指摘で、まず最初に県内大学短期大学の志願者数のところもいただいたのですけれども、そこの補足と言いますか、説明も含めてお答えさせていただきます。こちらは備考にも経済不安による生徒 1 人当たりの志願校数の減少などによりということで書いてあるのですが、全国的に学生の 1 人当たりが何校志望を出すかというところが実は少し減少しており、背景には経済不安等によると書いてあるのですが、共通学力テスト、昔のセンター試験という制度が少し変わったことにより、センター出願によりたくさん出願を出すといったことがあまりできないというか、やらない傾向になっていることも背景に実はあります。そういうところで首都圏などそういう都市圏以外のところは全体的に少し志願校数というものが全国的に下がっていることもあり、その影響で足元少し減ってしまったということが成長戦略の初年度として実はありました。けれどもやはり石川県全体として、高等教育機関が 1 人当たりに対してすごく多いという特徴もありますので、そこはしっかりといろいろな働きかけや施策で若い力をどんどん県内に呼び込むということにしっかり対応していきたいと思っているところでございます。

まさに佐田さんがおっしゃったところに近く、能登の方で働きたいけれども働けないような方を受け入れることも企業としてはできるというようなお話は非常に貴重なご意見だと思い、働く場所ということについては商工労働部等にもいただいたご意見をしっかりと伝え、どういった形で、せっかくできるのだけれどということと、能登の被災地側でのどういったニーズがあるのかというところが本当は上手くつながりさえすればというところが、確かにご意見の通りにあるということも感じました。しっかりつなげていきたいと思います。貴重なご意見ありがとうございました。

數馬さんもあばれ祭りの時はありがとうございました。まさにお酒というところで今、県内で助け合っていくという形で酒造組合さん一丸となって対応されているというところは本当にすごいと思います。まさにこういうときだからこそ、採用活動をしっかりやっていこうと思っていますというお話と、今まさに能登に行きたいとおっしゃる方は、結構やはり違う覚悟感を持っておられる方がというところで、今我々も元々移住定住施策をやっていますけれども、震災後に移住を元々検討されていた方は、やはり今石川県ちょっと厳しいですしょうかと控えられる方もいれば、逆に今こそ能登であったり、石川に行きたいというようなお声も結構出てきており、どういったことができるのかというところが漠然とではあるのですけれども、こういったときこそ行きたいという方やお声をいろいろなところから我々の方も聞いているところです。今までとは違う形で移住定住を検討される方が既に出てこられたり、これからもそういった方は増えるということもあるので、県としても何かそういうところをよりしっかりつなげ、後押しできるような動きをしていかなければいけないと改めて感じました。

【馳知事】

數馬さん。早く數馬酒造のお酒が飲みたいのだけれど、改めて、金沢能登間の移動時間について、これはどう考えても能登里山海道の 4 車線化しかありません。今、国交省にも特段の配慮をお願いしております。結構道路がベコベコになっています。あれを直すことも必要ですし、4 車線化の用地はもう取得してありますので 4 車線化もこれは本当に急ぎます。やはり背骨の部分がしっかりしていないといけないと思いますので、間違いなく急いでやりたいと思っています。

また、採用も一生懸命頑張っていただきありがとうございます。その方々が能登で住むスペースの確保というのは、これも大事な案件です。実は6月補正予算で、空き家だけどまだ使えるホヤホヤの空き家については設備も含めて修繕の予算を補正予算で出しております。実は当面、これは能登に入ってくる支援者支援のためにその場所を確保しようと、ホテル旅館が今ちょっと少ないですから。ここをやはりさらに打ち込み、支援者支援で整備するのだけれど、大きい能登の家だと1軒当たり8人から10人ぐらい生活できますから、復興特需が終わった後も使えるように、例えば、サテライトキャンパス構想で、1週間から10日間ぐらい滞在いただき、そこでフィールドワークをしたり、プログラム教育をすることができるような、そういったことも考えてやっておりますので、改めて能登で就職して頑張ろうという人たちの住む場所の確保については、特筆してまた我々も頑張りたいと思っていますのでよろしくお願いします。

まさしく浅野さんがお答えしましたが、今の能登の高校生の教育において、始業時間をうまく合わせれば、各授業の時間をオンラインでつないで授業できるのです。今実は能登の各高校の始業時間が少しバラバラです。バスの時間の問題もありバラバラなのですが、できるだけ特色ある教育についてはオンラインでも十分可能です。それにより単位認定も文部科学省は特例でコロナのときに認めたのですから、これを認めることができるような環境づくりを私もしたいと思っています。改めてこういう環境を乗り越えていこうとしている小中高校生に、能登で勉強する、友達と学ぶ、これがいかに価値のあることなのかということを伝えていきたいと思っていますので、改めて皆さん方のご指摘を踏まえた対応したいと思っています。

加納さんがおっしゃっていただいたように、人手不足の点は、やはり能登に関してもそうですが、在籍出向制度をうまく活用してできないか。雇用調整助成金の延長も今、もちろん求めていますが、今やはり働きたい働ける人を、仕事をしないで雇用調整助成金でどうぞというだけではなく、これは契約によるのですが、今やはり何か働いて、自分も貢献したい、復興のために自分も頑張りたいという人にそういう場を提供する意味で県内の企業の皆さん方にもいろいろな意味でご協力、業務の切り分けなどを含めお願いしたいと思います。これはILACを通じ、またマッチングの提供などをお願いしたいと思いますので、佐田さん含めてまたご協力いただきたいと思います。

【青木座長】

ありがとうございました。

それでは予定の時間を大幅に過ぎておりまして、ここで意見交換を終了させていただきたいと思います。委員の皆様、会議の進行にご協力いただきまして誠にありがとうございました。本日は成長戦略や創造的復興プランの実施について、皆様から様々な意見が出されたと思っております。大変有意義な会議だったと感じております。事務局においては、本日委員の皆様からいただいたご意見を、成長戦略、それから創造的復興プランに基づく各種施策の推進に活かしていただきたいと思います。

それでは進行を事務局にお返しいたします。

４．閉会

【馳知事】

成長戦略を作ったときのメンバーは、従来の方式に従い、お偉いさん方にお願いしました。会長も北國新聞社の飛田会長でした。しかし、この成長戦略というのは10年後を目指して

いる。そのときにやはり次の時代を担う皆さんや我々がこの成長戦略、ましてや地震も水害もあった我々が、柔軟に、臨機応変に対応しながらも、いかにそれぞれが満足感を持ち、目標を持ち、希望を立ててやっていくことができるのか。そこはやはり我々が議論をしていく必要があると思っています。技術的な部分、財政的な部分というのは、県でもこれは消化して頑張っていきたいと思っております。それをやはり担うのが我々自身であるという当事者意識を持つこと、そして子どもたちにも当事者意識を持ってもらえるように、私は進めていきたいと思っています。それがミライカイギの役割だと思っておりますので、引き続き、皆さんにもいろいろと情報収集をしていただきながらご指摘をいただきたいと思います。

今日いただいたご意見をしっかりと受け止めて県政にしっかりと活かしていくことをお約束し、マイクを高橋さんに戻したいと思います。皆さん本当にありがとうございました。

【高橋企画振興部長】

それでは以上をもちまして、第2回石川県成長戦略未来会議を終了いたします。今後の会議につきましては改めてご案内をさせていただきたいと思います。

本日は貴重なお時間いただきまして、ご出席賜りまして誠にありがとうございました。